

平成30年度第5回嘉麻市立図書館協議会 会議録

1. 審議会等の名称 平成30年度第5回嘉麻市立図書館協議会
2. 開催日時 平成30年11月27日(火)午後2時00分～午後3時11分
3. 開催場所 碓井図書館 2階 集会室
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
 - (1) 委員
 - ・下川和彦委員・和田秀美委員・伊藤久枝委員・古賀稲子委員・坂口清春委員
 - ・添田民子委員・春口 香委員・杉村隆毅委員・甲斐治夫委員・石井一男委員
 - (2) 執行機関
生涯学習課
 - ・課長 長岡和広・図書館係長 山本博子・図書館係 藤原千晶(図書司書)
 - ・図書館係 安藤かよ子(臨時職員)
6. 傍聴人数 0人
7. 議題
 - 1) 嘉麻市立図書館基本計画(案)について
 - 2) その他
8. 審議の内容
(会議録の確認者の決定) → 春口委員に決定

(議事)

1) 嘉麻市立図書館基本計画(案)について

前回提示した嘉麻市立図書館基本計画(案)に基づき協議した。

(質疑)

- ・稲築地区には2館できるということか。
⇒稲築中学校、稲築東中学校のどちらにも学校内に公立図書館と学校図書館の併設を考えている。どちらも校区内となるので、子どもたちも通ってこれる。今後、全ての学校に併設するという事で考えている。
- ・稲築については稲築と稲築東の2つ中学校があり、今回の計画案では、それぞれに図書館を作ると聞いている。予算上のことも勘案した上で2館建設が可能となると事務局から聞いているがどうか。
⇒行革からも2館程度が望ましいと言われているところ、計画のまま進めると、嘉麻市には中学が5校あるため、5館と中央館で6館になり、逆に増えてしまうことになる。しかし、学校と併設するため、公立図書館を単独で持つよりも図書館の維持管理経費は断然安くなる。最終的には6館になり館の数としては増えるが、維持管理経費

としては2館程度残したときと同程度の経費となる試算をしている。

- ・耐用年数から考えると稲築図書館のほうが先であるが、なぜ、碓井図書館が先なのか。
⇒碓井中学校が土砂災害区域に入っており、早急に整備しなければならないため、学校施設整備基本計画の中の優先順位では、碓井が一番となっており、図書館もそこに合わせることになっている。
- ・自分は碓井に住んでいるが、家族も含めてこの件を他の人に話した際、それはどうかという意見があった。下山田小学校の図書室はすぐ近くに公立図書館があるため、そちらを利用される方が増えたと考えられるが、碓井の場合はどうなるのかと思う。碓井図書館が学校との併設になるのであれば嘉穂図書館に行こうかなという声が聞こえてきた。そういう声があることを理解していただきたい。だから学校の中に出来ることに違和感があるのではないかと思う。出来てみなければ分からないが、そう感じる人も結構いるのではないか。
⇒実際に学校の中に入るのには抵抗がある（敷居が高い）と感じる方がいるということは理解している。施設については、一般開放ゾーンと学校ゾーンを分ける等、一般の方が入りやすい形にしたいと考えている。具体的には調整が必要であるが、事務局としては一般の方が入りやすい形にしていきたいと考えている。せっかく図書館を併設しても利用者が激減したということでは意味がないため、教育委員会とも協議しながら進めていきたいと考えている。
- ・この計画は、今後の4館の在り方を明確に書いてあると思う。それぞれの特色を書いてあるので私はいいと思った。
- ・資料内容について、2ページ目の図書館計画の位置づけの所で、図式化されて分かりやすいが、西暦と年号が入り混じって表記されている。市民の方が見たときにわかりやすいように年号表示の所をカッコ書きでもいいので西暦で表示するなど、統一して表記した方が分かりやすいと思うが可能か。
⇒入れることは可能と思う。市としては「平成29年度」というのが正式名称なのでカッコ書きならば可能だと思う。入れる方向で検討したい。
- ・3ページ図書館施設の設置状況のところ、拡大鏡、自動読み取り機等がどこに何台あるのか等を入れてもらうと、市民の方も利用しやすいし、理解いただけると思うのでどこかに表示していただきたい。
⇒障がい者サービスの所等、記載を追加する。
- ・31ページの高齢者サービスの充実の所で、ご自分で本が読めなくなった方のいらっしゃる施設に訪問し、おはなし会とかを提供するのは良いと思うがどうか。
⇒ご意見を参考にして修正可能であれば検討する。高齢者サービスをどこまで広げていくのか具体的な打ち合わせが出来ていないが、検討の文言をまとめたい。
- ・31ページの中・高校生の読書活動推進事業の所で、「中・高校生が自ら進んで読書を行う環境を整えます。」の使い方に違和感がある。
⇒文言については検討する。

- ・障がい者サービスの充実の所で、「障がいを持つ」という表現に統一されていますのでし気になった。
⇒「障がいのある」に修正する。
- ・次回までにこの基本計画（案）は全体的に精査、修正されるのか。
⇒次回12月の協議会開催前に、整理したものを事前に送付し、委員の皆様は、次の会議でご意見をいただきたいと思っている。

事務局から、26ページのイメージ図について修正案を提案説明。

- ・稲築と碓井、山田と嘉穂が同格ではありえない。稲築と碓井は学校併設になり、山田と嘉穂はそのまま存続され、いずれは山田、嘉穂どちらかが中央館になるのかと思っていた。先ほどの話によると、将来は山田と嘉穂も学校併設になり、中央館は新たにできるという話だった。それであれば、将来像として山田か嘉穂のどちらかを嘉麻市の代表館として整備し、中央館の役割を担わなければいけないと思うがどうか。
⇒嘉穂図書館については、歴史的な文書や貴重本の収蔵については、当面、収容能力が一番高い嘉穂図書館に集めるように考えているが、だからといって嘉穂図書館を中央館に定めるとは考えていない。合併時に4つの図書館の中央館をどこに定めるかの議論を経た中で、合併からこれまで中央館を置かずに10年間運営してきた。それが良くないという意見もあると思うが、実質的な運用が今まで出来ていたという所もある。今の段階で中央館を定める必要性についての結論が出ていない状況である。中央館を置けば、そこには職員の配置が必ず必要になってくる。嘉麻市の職員体制が決まっていないうちで、中央館を定めることで課として動きがとれなくなる可能性もあり、あえて中央館を置かないということとしている。公民館においても、合併時からずっと中央公民館を設置して運営しているが、今回の公民館基本計画の中では中央公民館廃止の方向性を打ち出し、市の条例の中では中央公民館は設置せず、職員配置が自由な形にできるようにしている。
- ・4つの町が一緒になったので、そうしたことももっともだと思う。例えば飯塚市では、今年から県立図書館との相互貸借の集約をする図書館が、飯塚図書館から筑穂図書館に変えられたため、県立図書館からの配送車が飯塚図書館に行かずに筑穂図書館に行くことになり、少しやりづらくなった。嘉麻市でもそうしたことが起こるのかと心配に思っている。
- ・将来的に山田も嘉穂も学校との併設図書館になるということか。
⇒小中一体型校施設整備のときに併設する方向性で考えている。
- ・すべての図書館が併設図書館となったのちの何十年後かに新たに中央図書館を建てるということか。
⇒中央図書館の設置の必要性が出てきたときに、既存施設で使えるものがあるのか、新設するのはその時の状況次第だと考えている。
- ・例えば、嘉穂図書館の横に大きな書庫が出来て、そこが中央館になるということも考えられるのかとも思う。

- ・稲築、碓井で学校との統合型図書館を作った後、万が一失敗ということであれば、再度、こうした協議会の中で作る、作らないという協議をするのか、或いは、絶対作るということになるのか。
⇒将来的に計画実施が難しいという判断がされれば、当然、計画の見直しがあり改定されると思う。しかし、現在のところ市の財政状況等を総合的に踏まえたうえでの計画なので、基本的にはこの計画のまま進めていくと考えている。
- ・今から危惧するわけにはいかない。今後、この話を進めていく上で、稲築は小さな規模の図書館からそれぞれの中学校に併設する図書館が2つになるので、割にやりやすいと思うが、立派な図書館がなくなる碓井をどうやって進めていくかというのが大変になってくるし、問われるところだと思う。
- ・稲築も現在の図書館を利用されている方がいるので、碓井でも稲築でも同じだと思う。
- ・碓井は、この地域で最初に出来た図書館で歴史もある。
- ・どちらにしても、新しいことなのでやってみなければ分からないと思う。自分は碓井図書館によく利用して本を借りているが、学校に併設されても行くと思う。行く人は行くし、行かない人は行かない。距離的にも便利さも変わらないので、本を読みたい方は行かれると思う。
- ・稲築東中学校にもできるのかという質問が出たと思うが、27ページの図を見ると「地域」とされており、4地域である。しかし稲築は2館作る。この図だと4館と間違われる。「地域拠点施設」というよりも「中学校区拠点施設」として5つ表示して欲しい。稲築には2館できることが分かりやすくなると思う。
⇒表記については検討する。
- ・協議会として中央館の問題は将来的にも論議しておいた方が良いと思う。合併から10年間設置してこなかったことの問題点も含めて、今後の図書館行政において中央館が無ければこのような問題点がある等の意見をいただければ、そこも併せて協議していきたい
- ・東京都が、1960年代に23区に大きな区の図書館とプラス中学校区に図書館を作った。例えば杉並区では、中央図書館と各中学校にあるので、たしか20以上の図書館がある。視察に行った明木図書館のように中学校に公共図書館が出来ると、児童に好ましくないような本が置きづらくなる。地域住民にとってポピュラーな本や雑誌が見られないけれども、中央館に行けばあるという案内ができ、またコミュニティバスの様なもので中央館と中学校区の図書館が集約できれば、うまく運営出来るということもある。今回も碓井、稲築の学校併設の図書館が出来るのであれば、地理的に離れていて大変だとは思いますが、中央館的なものが嘉穂か山田にあり、いずれ全て学校併設になって、どこかに中央館的なものが出来たら、“ここに行けばあります、見れます”とはっきり役割が明白になるのではないかと思う。
⇒嘉穂、山田それぞれ蔵書数を持っている図書館であるため、現在、山田には高齢者や医療の関係の本を、嘉穂には農業の本を少し多く揃えているが、後はほぼ変わらない現状である。中央館というのは他にないものを全て賄えるというイメージがあるた

め、現状の同程度の蔵書を持つ図書館のうち、どちらかだけ中央館とすることに疑問がある。どちらかを中央館として定めたときに、もう1館は縮小していいのではないかという話になっていく懸念がある。

- ・怖いとみるか、将来的に一つになるのであれば徐々にやって行くのも1つの方法ではないかと思う。私は山田図書館の設立時に関わっていたので、山田図書館が中央館になるものと思っていた。合併する前だが、それでやってきた。今は山田より嘉穂の方が資料的なもの、移動図書館車の配置もあり、拠点館的役割を行っているということであれば、それでいいと思っている。
- ・合併した市町村はどこも、合併後すぐからは中央館がないというのが通常なので難しい問題だと思う。
- ・すべての図書館を学校に併設した後に中央館設置を考えるという構想はすごいと思った。通常は既存の施設を利用し、あとは減らすというのが通常の行政の計画だが、見直しを行い、地域拠点館を作った上で、既存の建物になるかもしれないが、中央館をつくるという計画は、嘉麻市の図書館の将来があるチャレンジな構想だと感じた。
- ・計画ができ上がって、施設や運営方法が具体化していくと思うが、やはり人が必要。なぜ一般利用が出来にくいのか、施設面や運営のやり方など、実際見てもらえれば、良い考えも湧くかもしれない。これから下山田小学校にご案内したいと思っている。今後は学校としても良い方向に進むよう全面的に協力していく。
- ・この方針で行くということであれば、あとはどう充実させるかを考えていくべきだ。

(会長まとめ)

- ・次回の協議会では、今日、修正、手直しされた案を元に、パブコメの原案になる基本計画の最終確認ということになる。協議会へは諮問事項としてきているので、年度末には諮問に対しての答申を出すことになる。形としては、基本計画を修正するのではなく、基本計画に対して、協議会としての意見を答申として出すということになる。基本計画については枠では納得できるが、プラスして、この中で論議されたいろんな意見、こんな点には注意してください、配慮してくださいということを付帯意見として出すこととして考えている。

2) その他
特になし

9. 配布資料

- ・平成30年度第5回嘉麻市立図書館協議会次第

上記のとおり相違ないことを確認する。

平成30年12月17日

会議録確認者 春口 香